

動労総連合第2回定期大会開催！！

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

起つて闘う中に 労働者の生きざる道がある

動労千葉第十二回定期大会は、原職奪還、強制出向阻止、運転保安確立の三大方針貫徹へむけ、ストも辞さず闘う方針を決定した。この大成功をうけて、十月十七日午後、ところも同じく九十九里センターで開催された動労総連合第二回定期大会は、闘う体制の強化と動労総連合の組織拡大へ全力で突き進み、鉄道労連解体、「四・一」体制粉砕の旗を掲げ闘うことを満場一致で決定した。



水野委員長 挨拶を行う

動労総連合こそ労働者を 勝利に導く

大会は、十二時三〇分、辻川副委員長の「この一年間、動労総連合の闘いこそが既成指導部を突きあげ、真に労働者を勝利に導く存在であることが明らかになつた」と戦闘的に開会を宣言した。

資格審査委員会設置、資格審査発表（和田山中執）と行われ大会の成立が宣言された後、議事運営委員会を設置し、議長に齊藤代議員（動労千葉）が選出され「今総連合大会で闘いの決意をうち固めよう」と全参加者に訴えた。

スローガンが提起された後、水野中央執行委員長より「10・11三里塚での萩原さんの『すべての土地を三里塚を闘う全人民共同のものとして闘う』という発言に大変感動した。自分の利益だけを守ることをのみを判断基準にした時から裏切りが始まるのだ。これは、国鉄にも置きかえて考えなければならぬ。革マル松崎を見てみよ。自分の地位を得るために権力・当局にひざまずいて生きのびようとした。その状況の中で動労総連合は断固として闘いに起ちあがった。敵にひざまずくよりも起つて闘う中に労働者の生きの道があると決意し今日まで闘いぬいてる。資本にからめとられ、資本の犬になつた鉄道労連がいくら労働組合だといつたところで権威など何もない。これに対し動労千葉や動労総連合は全国から支援を受けて闘いぬいてる。これが労働

者の生きる道だ」と所感を混じえて挨拶を行い、動労総連合の進むべき方向性を明らかにした。

各組合より報告行われる

来賓として、安房地区労議長であり館山市議会議員の辻田実氏がかけつけられ「闘う地区労働運動を創り上げ中央を包囲する闘いを構築する」と、連帯の挨拶を行った。

機電・メッセージが紹介された後、経過報告、八七年度方針案（布施書記長）、労働協約・協定締結報告（山口中執）、会計報告（福田中執）、会計監査報告（鈴木監査委員）、大会延期承認（山口中執）、八七年度予算案（福田中執）を一括提起され、各地からの報告も含めて質疑に移った。

③差別・選別に対して当局追及、抗議集会、街宣、早朝ピラまきと闘い現在までできた。スト権を確立し組合員全員一人ひとりが組織を担う決意で鉄道労連解体を闘いぬいている。新生「動力車労組」結成は動労総連合の存在があるから成しえたものだ。（水戸）

②松崎の利己主義的で自分の組織だけ守ればよいということが許せなかつた。広島でマツダへの出向一五〇名位が予定されているがストで闘うことを決断した。鉄道労連解体へ闘う。（西日本）
①出向攻撃との闘いは職場からの反撃をいかにつくるかだ。鉄道労連の組合員でさえ「鉄道労連は組合じゃない」と言っている。闘えば負けるといふ間違いを吹きとばせば動労総連合へ結果する情勢がくる。今後の闘いにかかっている。（水戸）

④労働者の権利を守るため首を覚悟し、組合を結成した。その結果、一名が結集した。鉄道労連と組合員のミゾが深まっている。（高崎）
⑤四月の組織中枢を狙った不当配転で五

月に水戸地裁に仮処分を申請し、四回の申尋を闘い当局を追及している。また、権力の不当家宅捜索を許すことはできない。（これについては特別決議案が読み上げられ、答弁の中で承認された。）（水戸）

⑥貨物との団交で十月十五日に団交に関する暫定協約を結びたいと言わせた。この間圧倒的に教宣活動を行い二五種のピラを配っている。また、小松基地反対、原水禁大会、関西新空港反対、東大阪市議選、10・11三里塚と闘い天皇訪沖反対も決定した。（西日本）

新執行部へ 新たに動労西日本入る

討論をうけて布施書記長より「各組合の報告をうけとめこれからも闘いぬく」と答弁が行われ、経過報告及び八七年度予算案、八七年度運動方針案などを一括して承認し、今後一年間の闘う方針を決定した。

つぎに、役員選出が行われ、これまで中央副執行委員長であった中江昌夫氏が五八才の定年を迎えるにあたり、顧問へ（裏へつづく）



スクラムも固く組合歌を合唱する新執行部

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！